

3月の追い風に乗って

主幹教諭 松井 直樹

立春を過ぎ、少しずつ春の訪れを感じます。保護者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。日頃より、本校の教育活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、今回は、3月をどのように迎えるか、そのことについて考えてみたいと思います。

私は埼玉県に住んでおり、近くには荒川が流れています。川岸には広い空間があり、土手沿いからは気持ちの良い景色が広がっています。そして、私の大好きなランニングコースにもなっています。先日、いつものように土手の上を走っていると「あれ、今日は調子がいいぞ」と感じる瞬間がありました。よくよく考えてみると、それは背中から吹いてくる気持ちの良い風、つまり「追い風」によるものでした。足の運びも呼吸も楽になり、いつもよりよい感覚、記録も伸びていました。走っている時の気持ちよさや無心になる感覚に浸り、心地よいランニングでした。

3月は、延期された「おわかれ音楽会」など行事がぐっと詰まった1カ月になります。私はこの3月こそ、子どもたちや学級がぐんと伸びる、そして子どもたちが「成長を見せる月」であるとこれまでの経験で感じています。思い起こせば、新年度は6月にスタートしました。何度も目や耳に入ってくる「新型コロナウイルス感染症」、最初はマスクのゴムに違和感があったのに、今ではすっかり慣れてしまった「マスク生活」。人は人ともに生きていくのに、「人と接することを躊躇する1年間」でした。それは、いきなり吹き荒れた終わりの見通しが無い「向かい風」であったことでしょう。そのような中、子どもたちは、そして私たちも頑張ってきたのです。「人は向かい風の中でこそ、それを乗り越えたときに成長する」と私は考えますが、せめて、3月は子どもたちにとって、気持ちの良い風「追い風」が吹いてほしいのです。

では、どんなことが子どもたちにとって「追い風」になるのでしょうか。子どもたちには4月から希望とやる気をもって新しいステージ(学年)のスタートをきってほしい・・・ここから考えましょう。

- ・生活行動では「減点ではなく加点しよう、どんどんほめていこう」(認められる風)
- ・自分で自分のことを決めさせよう、またはいくつかの選択肢から判断させよう(判断の風)
- ・何か、できることを4月まで続けてみよう。(継続してやり遂げた喜び)(達成の風)

まだまだあると思いますが、どうやら生活の在り方が「追い風の基盤」となっていることがわかるでしょう。また、誰かに吹いてもらうのを期待するのではなく、自ら吹かせることも大切なことです。追い風は、向かい風よりは感じにくい風です。それでも、子どもたちにとって「追い風」が「おーいい風」だなあ・・・つまり、やる気と希望が湧いて表情がきりりとしてきたらいいですね。ぜひ我が家ではこんな追い風が子どもに吹いていました。・・・「我が家の子どもに吹いた追い風」をぜひ教えてくださいね。

本年度3回寄稿させていただきました。お読みいただきありがとうございました。保護者の皆様にも「おーいい風」が吹く3月になりますように・・・。